

【調査結果の概要】

令和元年の食用加工品の生産量（焼・味付のりを除く。以下同じ。）は153万8,506 tで、前年に比べ3%減少した。

主な加工種類別^(注1)にみると、ねり製品は49万9,920 t、冷凍食品は25万432 t、塩蔵品は16万9,955 t、塩干品は13万4,784 t、節製品は7万8,643 t、煮干し品は5万5,191 tで、前年に比べそれぞれ2%、2%、6%、3%、1%、7%減少した。

生鮮冷凍水産物の生産量は128万1,265 tで、前年に比べ8%減少した。

図1 食用加工品生産量の主要加工種類別構成割合（全国）

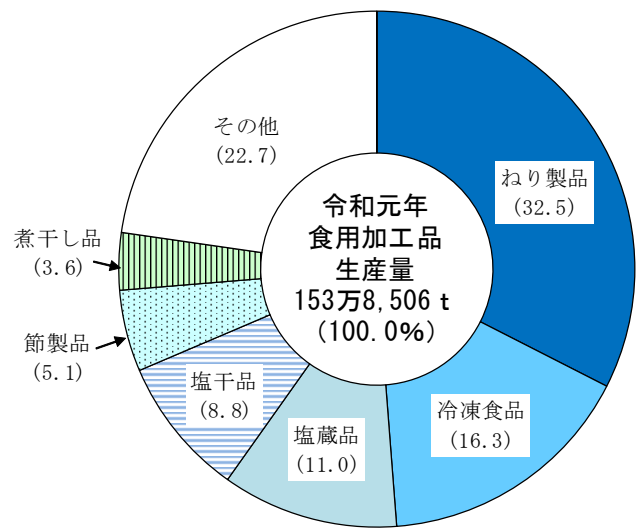


表1 主要加工種類別食用加工品及び生鮮冷凍水産物の生産量（全国）

区分	単位	平成30年	令和元年	対前年差	対前年比
食用加工品	t	1,586,804	1,538,506	△ 48,298	97%
うちねり製品	〃	509,569	499,920	△ 9,649	98
冷凍食品	〃	255,888	250,432	△ 5,456	98
塩蔵品	〃	181,630	169,955	△ 11,675	94
塩干品	〃	139,569	134,784	△ 4,785	97
節製品	〃	79,595	78,643	△ 952	99
煮干し品	〃	59,031	55,191	△ 3,840	93
焼・味付のり	千枚	6,558,385	6,442,555	△ 115,830	98
生鮮冷凍水産物	t	1,397,203	1,281,265	△ 115,938	92

- 注：1 加工種類とは、製造方法や保存方法により水産加工品を分類したものである。
 なお、水産加工品とは、水産動植物を主原料（原料割合で50%以上）として製造された、食用加工品及び生鮮冷凍水産物をいう。
 2 食用加工品の「計」には焼・味付のりは含まれていない。
 3 平成30年値は2018年漁業センサス結果である。

【調査結果】

1 食用加工品の主な品目別生産量

(1) ねり製品

ねり製品の生産量は49万9,920 tで、前年に比べ2%減少した。

品目別にみると、ねり製品生産量の約9割を占めるかまぼこ類は44万95 tで、前年に比べ2%減少し、魚肉ハム・ソーセージ類は5万9,825 tで、前年に比べ1%減少した。

図2 ねり製品生産量の品目別構成割合 (全国)

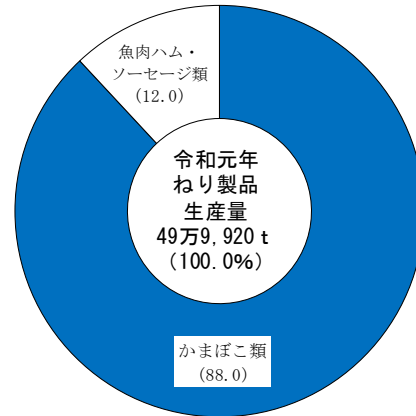


表2 ねり製品の品目別生産量 (全国)

区 分	平成30年	令和元年	対前年差	対前年比
	t	t	t	%
ねり製品	509,569	499,920	△ 9,649	98
かまぼこ類	448,861	440,095	△ 8,766	98
魚肉ハム・ソーセージ類	60,709	59,825	△ 884	99

(2) 冷凍食品

冷凍食品の生産量は25万432 tで、前年に比べ2%減少した。

品目別にみると、魚介類（切り身、むきえび等の加工品）は13万3,146 tで、前年に比べ8%減少し、水産物調理食品は11万7,286 tで、前年に比べ5%増加した。

図3 冷凍食品生産量の品目別構成割合 (全国)

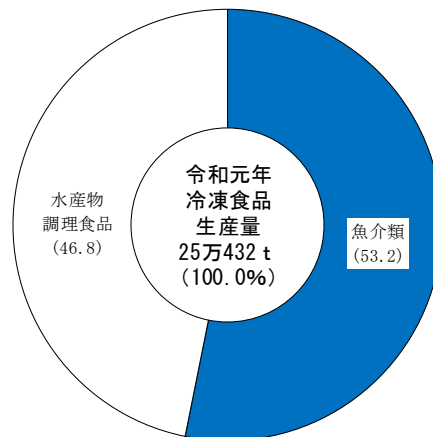
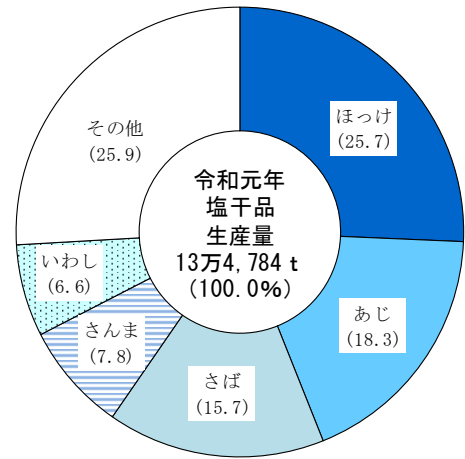


表3 冷凍食品の品目別生産量 (全国)

区 分	平成30年	令和元年	対前年差	対前年比
	t	t	t	%
冷凍食品	255,888	250,432	△ 5,456	98
魚介類	144,075	133,146	△ 10,929	92
水産物調理食品	111,813	117,286	5,473	105

図4 塩干品生産量の主要品目別構成割合
(全国)



(3) 塩干品

塩干品の生産量は13万4,784 tで、前年に比べ3%減少した。

主な品目別にみると、ほっけは3万4,611 t、さばは2万1,184 tで、前年に比べそれぞれ8%、4%増加し、あじは2万4,606 t、さんまは1万533 t、いわしは8,930 tで、前年に比べそれぞれ10%、7%、13%減少した。

表4 塩干品の主要品目別生産量 (全国)

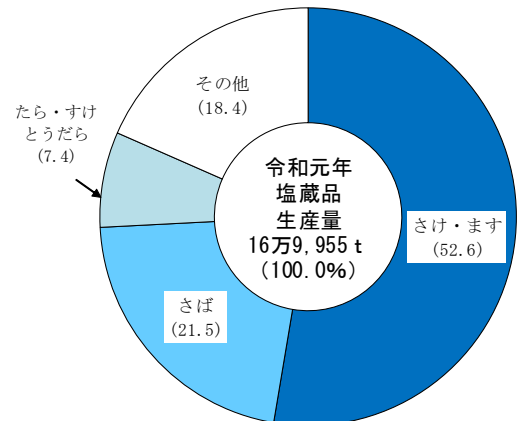
区分	平成30年	令和元年	対前年差	対前年比
	t	t	t	%
塩干品	139,569	134,784	△ 4,785	97
うち ほっけ	32,122	34,611	2,489	108
あじ	27,276	24,606	△ 2,670	90
さば	20,404	21,184	780	104
さんま	11,385	10,533	△ 852	93
いわし	10,267	8,930	△ 1,337	87

(4) 塩蔵品

塩蔵品の生産量は16万9,955 tで、前年に比べ6%減少した。

主な品目別にみると、さけ・ますは8万9,480 t、さばは3万6,600 t、たら・すけとうだらは1万2,558 tで、前年に比べそれぞれ2%、5%、5%減少した。

図5 塩蔵品生産量の主要品目別構成割合
(全国)



注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない。

表5 塩蔵品の主要品目別生産量 (全国)

区分	平成30年	令和元年	対前年差	対前年比
	t	t	t	%
塩蔵品	181,630	169,955	△ 11,675	94
うち さけ・ます	91,383	89,480	△ 1,903	98
さば	38,608	36,600	△ 2,008	95
たら・すけとうだら	13,240	12,558	△ 682	95

2 生鮮冷凍水産物

生鮮冷凍水産物の生産量は128万1,265 tで、前年に比べ8%減少した。

主な品目別にみると、いわし類は38万2,449 t、ほたてがいは10万8,349 tで、前年に比べそれぞれ11%、5%増加し、さば類は36万29 t、さけ・ます類は6万1,987 t、まあじ・むろあじ類は3万7,932 t、さんまは3万7,628 tで、前年に比べそれぞれ21%、20%、22%、52%減少した。

図6 生鮮冷凍水産物生産量の主要品目別構成割合（全国）

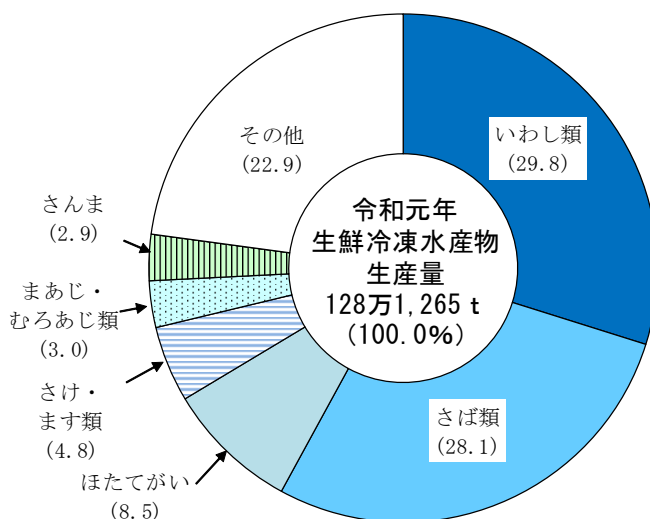


表6 生鮮冷凍水産物の主要品目別生産量（全国）

区分	平成30年	令和元年	対前年差	対前年比
	t	t	t	%
生鮮冷凍水産物	1,397,203	1,281,265	△ 115,938	92
うち いわし類	345,009	382,449	37,440	111
さば類	458,239	360,029	△ 98,210	79
ほたてがい	102,871	108,349	5,478	105
さけ・ます類	77,891	61,987	△ 15,904	80
まあじ・むろあじ類	48,534	37,932	△ 10,602	78
さんま	78,245	37,628	△ 40,617	48